

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第5号(9月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

病虫害発生予察情報については、当該月に発生が懸念される病虫害のうち、巡回調査等に基づき発生量の多少を予報できる病虫害について主に記載しています。

《特に発生に注意》

- 【水稲】 斑点米カメムシ類
- 【果樹類全般】 果樹カメムシ類
- 【きゅうり】 コナジラミ類(退緑黄化病)

《9月の予報概要》

A 水稲

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			紋枯病		
					斑点米カメムシ類
			トビイロウンカ		

B 果樹

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
果樹類全般					果樹カメムシ類
ぶどう			べと病		
			褐斑病		
				晩腐病	
			黒とう病		
			チャノキイロアザミウマ		
			フタテンヒメ ヨコバイ		
みかん			ハダニ類		
			黒点病		
			そうか病		
		ミカンハダニ			

C 野菜

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		うどんこ病		アザミウマ類	
			ネギアザミウマ (えそ条斑病)		
きゅうり			べと病		
			うどんこ病		
			褐斑病		
			ミナミキイロアザミウマ (黄化えそ病)		
					コナジラミ類 (退緑黄化病)

D 花き

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく				黒斑病・褐斑病	
				アザミウマ類	

E 野菜類・花き類

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
			コナガ		
			オオタバコガ		
			アブラムシ類		

《(参考) 大阪管区気象台8月22日(木)発表「大阪府の季節予報-1か月予報」》

気温	低い(10%)	平年並(10%)	高い(80%)
降水量	少ない(20%)	平年並(30%)	多い(50%)
日照時間	少ない(40%)	平年並(30%)	多い(30%)

(https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=270000)

A 水稻

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・注意すべき事項
紋枯病	並～ やや多い	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は平年並だった。 ・9月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・高温(28～32℃)、多湿時に多発する。 ・チッソ過多、密植、分げつ過多で発病が助長される。

紋枯病	並～ やや多い	・品種としては、キヌヒカリは本病にやや弱いので注意。
斑点米カメムシ類	多い	[予報の根拠] ・8月上旬の予察灯調査における誘殺虫数は平年並だった。 ・畦畔すくい取りでは、これから出穂を迎える調査地点で過去2年より多かった。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・近年、本府ではアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ(別名イネホソミドリカスミカメ)、ホソハリカメムシなどの発生が多い。 ・出穂前後の畦畔の除草はカメムシ類を水田に追い込むため、なるべく実施しない。 ・穂揃期(出穂後2～3日頃)に薬剤散布を行う。発生が多い場合は、乳熟初期(出穂後10日頃)にも散布する。 ・イネカメムシは他のカメムシより早めの開花直後から加害を開始するため、出穂期に薬剤散布を実施する。
トビイロウンカ	並	[予報の根拠] ・8月上旬の予察灯調査における誘殺は見られなかった(平年並)。 ・ほ場での発生は見られなかった(平年並)。 ・近隣の府県で8月中旬に予察灯への誘殺が確認されている。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・稲の株元(水際)に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認する。 ・多発が見込まれるときは8月上旬～9月中旬に1～2回本田防除を行う。

B 果樹類

1 果樹類全般

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	多い	[予報の根拠] ・8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)は平年より多かった。 ・8月の予察灯調査における誘殺虫数は平年より多かった。 ・9月の気温は高いと予想されている。 [注意すべき事項] ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

2 ぶどう

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	[予報の根拠] ・8月上旬の露地の巡回調査では、発生は平年並だった。 ・9月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。

べと病	並	[注意すべき事項] ・被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・発生を認めたら、初期防除を徹底する。
褐斑病	並	[予報の根拠] ・8月上旬の露地の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・枯枝や落葉、被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
晩腐病	やや多い	[予報の根拠] ・8月上旬の露地の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・被害果房は、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・施設内への雨滴の侵入を防ぐ。
黒とう病	並～ やや多い	[予報の根拠] ・8月上旬の露地の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・被害葉や被害枝は、ほ場外へ持ち出し処分する。
チャノキイロ アザミウマ	並～ やや多い	[予報の根拠] ・8月上旬の露地の巡回調査では、被害果率は平年よりやや少なかった。 ・8月の黄色粘着トラップ調査における誘殺虫数は平年よりやや多かった。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
フタテンヒメ ヨコバイ	並	[予報の根拠] ・8月上旬の露地の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・発生に注意し、被害の初期に防除する。
ハダニ類	並～ やや多い	[予報の根拠] ・8月上旬の露地の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・9月の気温は高いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・乾燥を好み、施設栽培でしばしば多発する。

3 みかん

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並～ やや多い	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。

黒点病	並～ やや多い	・9月の降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・伝染源となる枯枝は除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
そうか病	並～ やや多い	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、一部ほ場で発生が多かった。 ・9月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・被害葉、被害果実は早期に除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・排水、通風を良好にする。
ミカンハダニ	やや少ない	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・9月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや少ない ～並	[予報の根拠] ・8月の露地の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・9月の降水量は多い・日照時間は少ないと予想されている。
		[注意すべき事項] ・チッソ過多で気温が 25～28℃、湿度が 50～80%で日照不足が続くと発生する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤 (アミスター、ストロビー、シグナムなど)、SDHI 剤 (アフエット、シグナムなど) 等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	やや多い	[予報の根拠] ・8月の露地の巡回調査では、上旬では発生は平年より多く、下旬では発生は平年よりやや少なかった。 ・9月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難なため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、発生初期の防除を徹底する。 ・施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い 0.4mm 以下の白色ネットまたは0.8mm 以下の赤色ネット)を展張し、成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。

2 ねぎ ※ねぎは令和5年7月より巡回調査を開始したため、前年値との比較で予報しています。

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
ネギアザミウマ (えそ条斑病)	並	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では昨年度の同時期と比べて、ネギアザミウマの発生は同程度であった。 ・9月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ネギアザミウマはえそ条斑病の病原ウイルスであるアイリスイエロースポットウイルス(IYSV)を媒介する。

3 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
べと病	並	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・9月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・気温 20~24℃で発生が多い。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)、SDHI 剤(ベジセイバーなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	並	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・9月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。 ・昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)、SDHI 剤(アフエットなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
褐斑病	並~ やや多い	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は見られなかった(平年並)。 ・9月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。
		[注意すべき事項] ・高温、多湿の施設栽培で発生が多い。 ・初期防除が重要である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤(アミスター、ストロビー、シグナムなど)、SDHI 剤(パレード 20、ネクスターなど)等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
ミナミキイロアザミウマ (黄化えそ病)	並~ やや多い	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、ミナミキイロアザミウマの発生は平年並であった。 ・9月の気温は高いと予想されている。

ミナミキイロアザミウマ (黄化えそ病)	並～ やや多い	[注意すべき事項] ・ミナミキイロアザミウマは、発生初期に、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。さらに、きゅうり黄化えそ病等のウイルスを媒介するので防除を徹底する。 ・施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い 0.4mm 以下の白色ネットまたは0.8mm以下の赤色ネット)を展張し、成虫の侵入を防止する。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・きゅうり黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか、しろうり、にがうり等に感染する。 ・MYSV に感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。 ・生育初期の感染による被害が大きい。 ・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。
コナジラミ類 (退緑黄化病)	多い	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、コナジラミの発生が平年より多かった。 ・9月の気温は高いと予想されている。 [注意すべき事項] ・主にタバココナジラミによって、退緑黄化病が媒介される。 ・ほ場内や周辺部の除草を徹底する。 ・施設栽培では、開口部に0.4mm目合いのネットを張り、成虫の侵入を防止する。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)によるウイルス病であり、きゅうり、メロン、すいか等に感染する。 ・CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。 ・発病株はほ場外へ持ち出し処分する。

D 花き(きく)

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・ 褐斑病	やや多い	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・9月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。 [注意すべき事項] ・気温 24～28℃位、降雨の多い場合に発生が多い。 ・雨が予想される場合は、発生前から薬剤の予防散布を行う。 ・被害葉は早めに取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。 ・QoI 剤、SDHI 剤等は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	やや多い	[予報の根拠] ・8月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・9月の気温は高い・降水量は多いと予想されている。

アザミウマ類	やや多い	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品種により被害の現れ方に差がある。 ・ほ場内部、周辺の除草に努める。 ・きくの残さは放置せず、ほ場外に持ち出し処分する。 ・ビニールなどのマルチングにより、土中で蛹化するのを防ぐ。 ・施設栽培では、開口部に防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防止する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、発生初期の防除を徹底する。
--------	------	--

E 野菜類・花き類

病害虫名	予想発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年より多かったが、平年より少ない地点もあった。 ・9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を行う。 ・卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は複数の地点で平年より多かったが、平年値の1.4倍程度であった。 ・8月のさといもの巡回調査では、発生は平年より多かった。 ・9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫期)に防除を行う。 ・卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年よりやや少ないからやや多いと幅があった。 ・8月の予察灯への誘殺虫数は、平年より少なかった。 ・9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
オオタバコガ	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月のフェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年よりやや多かったが、平年より少ない地点もあった。 ・露地なすの巡回調査では発生は見られなかった(昨年より少ない)。

オオタバコガ	並～ やや多い	<ul style="list-style-type: none"> ・9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫の捕殺は、被害軽減効果が大きい。 ・摘除した茎葉や果実にも、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場外へ持ち出し処分する。
アブラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の露地なすおよびきゅうりの巡回調査では、発生は平年並であった。 ・8月の黄色水盤調査における発生は平年並であった。 ・9月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

LINE 始めました! 週1回程度、病害虫や大阪エコ農産物制度に関する様々な情報をお届けします。
 こちらより友達登録:<https://works.do/R/ti/p/byogaichu@bojo>

大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

① <https://www.pref.osaka.lg.jp/oi20090/nosei/byogaicyu/index.html>

② <https://www.jppn.ne.jp/osaka/>

病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループメールサービス担当

<https://www.jppn.ne.jp/osaka/maillservice/maillservice.html>

おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所企画部企画グループおおさかアグリメール受付担当

<https://www.knsk-osaka.jp/nourin/agrimail/>

Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」(大阪府植物防疫協会)

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

※情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です。